

「牛肉麺に台湾民主主義の感度をみる」

(財) 交流協会 専務理事 井上 孝

筆者の台湾在勤時代の楽しい思い出は数多くありますが、そのうちの一つは何と言ってもおいしい中華料理を堪能できたということでしょう。台湾料理はもちろん、北京、上海、広東料理から四川、湖南、客家料理にいたるまで、中国大陸各地のおいしい料理が台湾では思うがままに味わえたのです。

蒋介石・国民党政権の台湾渡来に関する歴史的・政治的評価は各人様々でしょうが、彼らとともに大陸各地から腕のいいコックが台湾にやってきたことの遺産は明白です。

オフィスの昼飯時によく通った薄汚い中華飯屋の揚げパン、連れて行った家内が食べるのがもったいないと溜息をついた某北京料理屋の華麗なデザート、そして某ホテルの上海ガニなどなど、今でも思い出だけで唾が出てきそうになる料理が幾つもありました。

その中でも筆者にとって最も思い出深いのが、なにおいでも台湾の牛肉麺のおいしさでした。

それほど私にとって思い入れの深いものでしたので、二年半前に現職について十年ぶりに台北を訪れたときに、牛肉麺についてショックを受けたことが二つありました。

一つは、十年前は単身赴任であったため、週末の昼飯時になると出かけては、「紅焼的、一個」と注文して食べていたアパート隣の牛肉麺屋が何と宝石屋に変わってしまっていたことで、もう一つは、人を見送りに行く都度愛好していた桃園国際空港出発ロビーの牛肉麺屋がすさまじいまでに不味い店になっていたことでした。

前者は単なる個人的なセンチメントにすぎませんが、後者は、台湾の海外に対する顔ともいうべ

き桃園国際空港の出発ロビーにある店であり、台湾のためにも許しがたいと公憤を覚えざるを得ませんでした。

このため、台湾からお呼びした有力者のお一人に、ついつい、あれはひどい、台湾のためにならないと思いのたけをぶちまけてしまうことがありました。

この方は、日本流に言えば某官庁（なお、交通部ではありません。）の官房長に当たる方だったのですが、偶然、職責上桃園国際空港管理会社の董事をも兼ねている人であったため、即答があり、実は我々もその問題点に気が付いていた。多くの方からクレームがあったため、もう既にその店は入れ替えた。今度おいでになったときには十分に満足いただけるはずと保証いただきましたが、その後松山空港直行便が開通してしまったため確認する榮に浴していません。

しかし、ここで筆者が感銘を受けたのは、一牛肉麺屋の味に対する多くのクレームが某官庁の官房長のところまで確実に上がり、対応がとられていたということでした。

台湾が李登輝政権とともに民主化の道を歩み始めてからもう既に二十年を経過していますが、台湾民主主義は未だその新鮮さを失わず、感度高く機能しているように思われます。このような点こそ台湾が大陸に対し誇り得ることなのではないかと、意を強くしたことでした。

同官房長からは、松山空港ラウンジにある牛肉麺もお勧めである旨言われましたので、そちらの方はぜひ次に試してみたいと思っています。

なお、申しあげるまでもありませんが、以上はすべて筆者の私見です。